

## テーマ：商業販売統計（2006年4月）

発表日：2006年5月29日（月）

～ 天候不順により低迷も、基調は底堅い ～

第一生命経済研究所 経済調査部  
 担当 副主任エコノミスト 新家 義貴  
 TEL：03-5221-4528

### （要旨）

- 4月の小売業販売額は前年比▲0.6%と3ヵ月ぶりの前年割れで、ほぼ事前の市場コンセンサス並み。季節調整値でも1-3月期対比▲1.2%と低調。
- 4月の不振の原因は天候不順。5月も天候不順が続いたことや、多くの人にとって生活必需品である野菜価格の高騰もあり、4-6月期の消費は期待ほどの伸びにならない可能性が出てきた。
- もっとも、これらはあくまで一時的な要因であり、これをもって個人消費の減速ととらえることは適当ではない。消費を取り巻く環境は良化していることもあり、天候不順等の悪影響が剥落すれば、小売業販売額も再び増加傾向に転じる可能性が高い。

（単位：％）

		商業販売額										コンビニ販売額	
				卸売業		小売業		大型小売店					
		前年比	前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比	既存店前年比	既存店前年比	既存店前年比	前年比	既存店前年比
05	1-3月期	2.1	0.2	2.7	▲0.6	0.0	1.7	▲1.6	▲4.0	▲3.0	▲4.7	0.5	▲2.1
	4-6月期	2.7	0.4	2.5	1.0	3.2	0.5	▲0.4	▲2.5	▲0.4	▲3.8	1.9	▲1.5
	7-9月期	2.1	0.5	2.5	1.2	0.8	▲1.5	▲0.9	▲2.4	▲0.1	▲3.9	1.4	▲2.3
	10-12月期	3.6	2.3	4.6	3.1	0.5	▲0.1	0.3	▲0.7	1.2	▲1.9	0.0	▲3.4
06	1-3月期	4.6	1.1	5.8	0.5	0.6	1.7	▲1.3	▲1.7	0.4	▲3.1	0.7	▲2.7
05	1月	3.8	3.5	4.3	1.9	2.4	3.6	▲1.3	▲1.3	0.7	▲2.6	1.3	▲1.9
	2月	2.2	▲2.2	3.8	▲0.6	▲2.7	▲2.2	▲4.3	▲6.7	▲7.2	▲6.4	▲1.9	▲2.8
	3月	0.7	▲3.6	0.9	▲5.1	0.3	▲0.5	▲2.4	▲4.5	▲3.2	▲5.5	1.9	▲1.5
	4月	3.1	4.9	2.9	5.8	3.8	2.3	▲0.7	▲2.4	▲0.5	▲3.6	2.3	▲1.2
	5月	3.1	▲2.1	3.2	▲2.0	2.9	▲1.0	▲0.7	▲3.1	▲1.4	▲4.2	1.3	▲2.0
	6月	1.9	1.1	1.6	1.2	3.0	0.0	0.0	▲1.9	0.7	▲3.6	2.2	▲1.4
	7月	0.3	0.6	0.2	1.2	0.6	▲1.4	▲0.4	▲1.7	0.6	▲3.4	▲1.1	▲4.9
	8月	4.7	1.3	5.7	1.6	1.6	0.7	▲1.4	▲2.9	▲1.1	▲4.0	2.0	▲1.4
	9月	1.5	▲2.7	1.8	▲3.4	0.2	▲0.6	▲0.9	▲2.8	▲0.2	▲4.5	3.5	▲0.3
	10月	2.2	2.6	3.0	3.4	▲0.4	▲0.3	▲1.9	▲3.4	▲0.4	▲5.4	0.5	▲3.0
	11月	4.2	1.6	5.3	2.0	0.6	0.4	1.8	0.8	3.1	▲1.0	▲0.5	▲3.9
	12月	4.4	0.3	5.4	0.5	1.3	0.4	0.7	0.6	0.9	0.3	0.1	▲3.4
06	1月	5.3	4.0	7.4	3.1	▲0.4	2.4	▲2.3	▲2.8	▲0.9	▲4.1	0.3	▲3.2
	2月	5.5	▲2.7	6.9	▲2.0	1.1	▲1.4	▲1.5	▲1.9	0.3	▲3.3	1.2	▲2.4
	3月	3.3	▲5.1	3.9	▲6.8	1.0	▲0.3	0.0	▲0.3	1.8	▲1.8	0.7	▲2.6
	4月	4.1	5.6	5.6	7.4	▲0.6	0.1	▲0.4	▲0.8	▲0.4	▲1.1	▲1.8	▲5.0

（出所） 経済産業省「商業販売統計」

### ○ 天候不順の影響から3ヵ月ぶりに減少

本日、経済産業省より2006年4月の商業販売統計が公表された。商業販売額は前年比+4.1%と増加、内訳では、卸売業が同+5.6%と増加する一方で小売業は同▲0.6%と3ヵ月ぶりに減少した。また、大型小売店販売額は前年比▲0.8%（既存店）とマイナス幅は前月よりやや拡大、業態別には百貨店販売額は同▲0.4%と3ヵ月ぶりのマイナス、スーパーは同▲1.1%と4ヶ月連続の減少となっている。

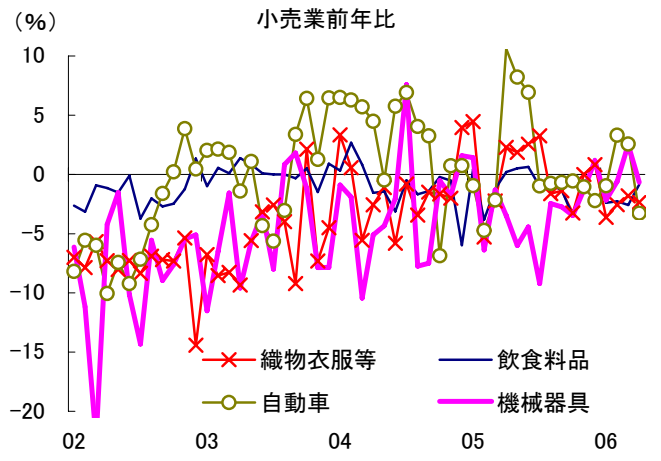
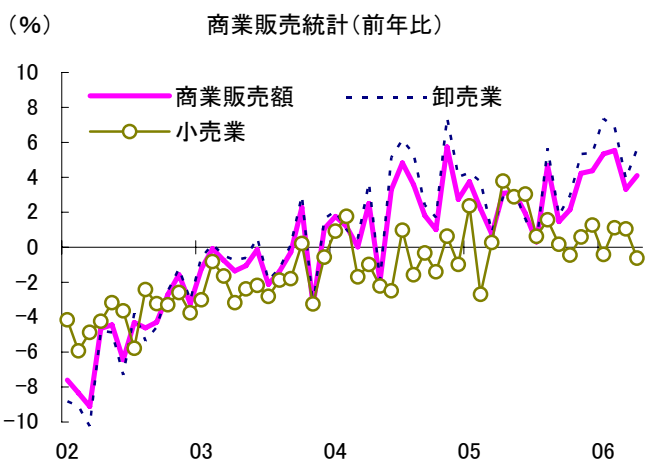
全体として、4月の小売業販売は振るわなかった。この結果は、事前に公表されていた不冴えな業界統計とも整合的であり、違和感のないものである。実際、前年比▲0.6%という伸び率は、ほぼ事前の市場コンセンサス（▲0.5%、レンジ▲3.6%～+1.5%）通りである。なお、石油製品価格上昇の影響で押し

上げられている燃料小売業を除けば、前年比▲1.6%とマイナス幅はさらに拡大する。また、季節調整値では前月比+0.1%と微増ではあるが、1-3月期比でみれば▲1.2%と低迷が目立つ。

4月の消費が芳しくなかった最大の要因は、天候不順である。4月は例年に比べて降雨量がかなり多く、気温も低かった。特に週末に雨が重なったことが影響し、春・初夏物衣料品などを中心に売上が伸び悩んだところが多かったようだ。5月についても天候は不安定な状況が続いており、5月の個人消費も低迷を続ける可能性は高いだろう。また、もう一点気になる要因としては、野菜価格の高騰が挙げられる。多くの人にとって生活必需品である野菜の価格が上昇すれば、その分、他の消費に振り向ける購買力が殺がれ、今後の個人消費に悪影響を与える可能性がある。

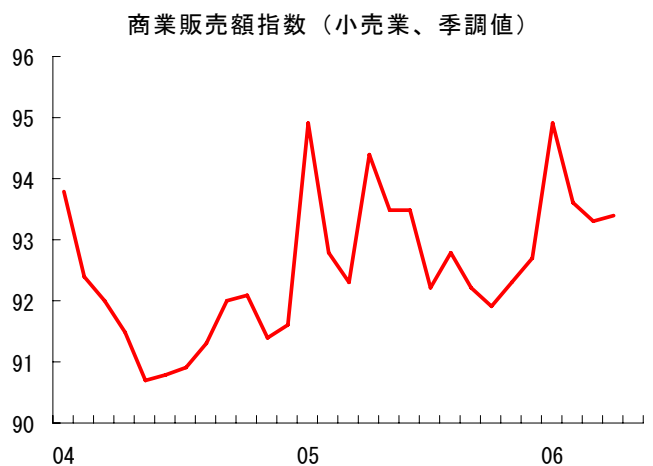
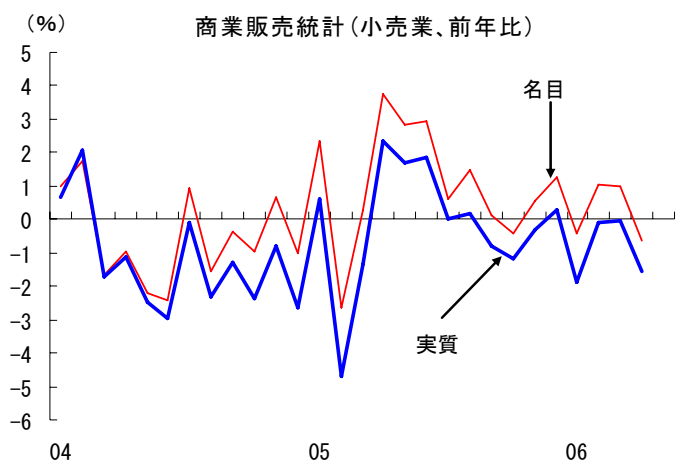
サッカーワールドカップ関連の需要でデジタル家電を中心に4-6月期の消費が押し上げられるとの期待もあったのだが、こうした天候不順等の悪影響を考えると、4-6月期の個人消費は期待ほどの伸びにはならない可能性が高まってきたといえそうだ。

もともと、こうした天候不順やそれを受けた野菜価格の高騰等は、あくまで一時的な要因であり、これをもって個人消費の減速ととらえることは適当ではない。実勢としてみれば、個人消費の堅調な推移は持続していると考えられる。足元では、景気回復に伴う雇用環境の改善や賃金の緩やかな増加がみられている。また、消費者マインドの改善も続いており、個人消費を取り巻く環境はむしろ良化している。先行きに関して、景気の成熟化に伴って企業から家計への回復の波及はさらに明確化してくると考えられることから、雇用者報酬は徐々に伸びを高めてくるだろう。そのため、定率減税の縮減・廃止などの税・社会保障負担増による個人消費への悪影響は十分吸収可能だ。こうしたことから、天候不順等の悪影響が剥落すれば、小売業販売額も再び増加傾向に転じる可能性が高いと思われる。



(出所) 経済産業省「商業販売統計」

(出所) 経済産業省「商業販売統計」



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。